

第34回公演

はっ

はる

ともえ

の

だぎわい

初春巴港賑

◆日時／平成24年2月12日(日) 午後1時開演
 ◆場所／函館市民会館 大ホール
 ◆入場料／2,000円(全席自由)(税 込)
 入場券発売所／函館市民会館 函館市芸術ホール 松栢堂市内各レイガイド
 ※市民会館管理棟3階の展示室を待合所としてご利用いただけます。

初春巴港賑

(演目)

口上

義士外伝神崎東下り

白浪五人男

梶原平三誉石切

(あらすじ・解説)

「義士外伝 神崎東下り」

「峠茶屋強請の場」

御存知、忠臣蔵の外伝。

赤穂の浪士、神崎与五郎則保は主君の仇を討たん為、赤穂から江戸へ向かう途中箱根の峠を前に一軒の茶店に立ち寄る。

折から酒癖の悪い丑五郎と云う馬方に馬に乗ってこれとからまれ「拙者は馬は嫌いだ」と口走って仕舞う。

馬が嫌いで何に乗るのだ。偽侍とののしられ刀の柄に手を掛けるが今ここで事件を起こして役人に調べられたら面倒な事に成り是迄の同士の者の苦勞が水の泡

に成つてはと我慢する。質の悪い丑五郎は神崎に上下座させ詫状までかかせる。「世が世の事で有ろうなら捨ておく奴ではなかりしに」無念の涙をこらえて...

「丑五郎改心の場」

赤穂の浪士が主君の仇を討つたと云う快挙は忽ち世間に広がり庶民の憧れの話となり、ここ三島の宿の一室にて江戸の有名な講釈師に依つて三日目を迎えいよいよ今日は吉良家へ討ち入りの名場面である。折しも降りしきる雪の中四十七士の面々が目指すは本所松坂町吉良の屋敷の表門と講釈師の名調子に丑五郎はすっかり赤穂浪士に成りきつて大喜び。とその中に神崎与五郎則保と云う名を聴いて驚く丑五郎。

果たしてどう云う事と相成りますか。

「白浪五人男」

「稲瀬川勢揃いの場」

文久二年(一八六二年)三月市村座初演で河竹黙阿弥作。

白浪五人男と綽名される五人組の盗賊の弁天小僧と南郷力丸は、武家の娘と供侍に変装して雪の下の呉服商浜松屋に現れる。

わざと万引きしたと見せかけて番頭から額に疵をうけた弁天は、逆に百両の金をゆすり取る。

その帰りがけ、玉島逸当と名乗る侍に男であることを見破られた弁天小僧は、振袖の片肌を脱いで桜の入墨を見せ、お馴染みのセリフで「知らざア言つてきかせやしよう...」と正体を明かす。

実は、玉島逸当こそ五人男の頭分日本駄右衛門で、その夜浜松屋へ賊に入る

が、不思議な縁で弁天と浜松屋の主幸兵衛、駄右衛門と店の倅宗之助がそれぞれ父子であることが判る。最後が迫つた五人男は桜花爛漫たる稲瀬川堤に勢揃いする。

「梶原平三誉石切」

「鎌倉星合寺の場」

源頼朝との合戦に大勝利した平家方の大名、大庭三郎景親と弟の保野五郎景久が参詣にきているところへ、当時はまだ平家方の梶原平三景時も参詣に訪れ、一同と出会う。

そこへ青具師六郎太夫と娘の梢が、梢の許嫁のため、源氏再興の軍用金調達ということを隠して、大庭から所望されていた重代の名刀を買い取つて欲しいと持つてくる。刀の目利きに定評のある梶原が太鼓判を押し、大庭は六郎太夫の言い値通り買おうとするが、保野が目利きを無視した物言いをする。必死の思いの六郎太夫は、人間二人を重ねて一度に斬るのもたやすい二つ胴と伝えられる重宝だと訴える。そこで死罪の決まった科人で試し斬りを行おうとするが、死罪の囚人は一人しかおらず、大庭は父娘を帰そうとする。何としても娘のために金を作りたい六郎太夫は、ありもしない証文を梢に取りに帰し、自分が二つ胴の一つになろうと申し出る。六郎太夫の心情を受け、目利きをした梶原自身が、気合いもろとも刀を振り下ろす。

我が身を呈して二つ胴の一つになろうとした六郎太夫と梢の人情芝居、二人を助けようと一計を案じる梶原の勇氣、そして「石切梶原」と呼ばれる所以でもある、「切り手も切り手」「剣も剣」と掛け合う一番の見せ場に、乞うご注目。

● 演出

市川 團四郎

● 出演予定者

口上

永井 英夫・正田

恩村 宏樹・今

義士外伝神崎東下り

馬方丑五郎

茶店娘お花

茶店婆お寅

茶店女将佳乃

茶店亭主多左エ門

座頭の市

隠居幸兵衛

平次親分

流れ星お七

講釈師神田伯水

弟子神田伯一

神崎与五郎

白浪五人男

日本駄右衛門

弁天小僧菊之助

忠信利平

赤星十三郎

南郷力丸

捕り手

捕り手

捕り手

梶原平三誉石切

梶原平三景時

大庭三郎景親

保野五郎景久

山口十郎政信

川島八平近重

岡崎将監頼国

森村兵衛宗連

初岡修理亮

二階堂五郎

光村左衛門

囚人呑助

太刀持ち音若

青具師六郎太夫

本間 愛弥子

田口 幸太郎

後平 恵照

小椋 幸明

川上 誠

石原 淳

原上 幸

最上 淳

坂上 幸

原上 幸

石原 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸

原上 幸